



少年センターだより

令和5年11・12月号(第427号)



毎月1日「少年の日」 ☆育て少年心豊かにたくましく!第3日曜日「家庭の日」 ☆咲かせよう明るい会話, 家族の輪

11月は「ココロねっこ運動強調月間」です

11月は「秋のこどもまんなか月間」であり、長崎県では「ココロねっこ運動強調月間」が実施されます。「ココロねっこ運動」とは、子どもたちの心の根っこを育てるために大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てる県民運動で、平成13年度にスタートして今年で23年目になります。

なぜ、ココロねっこ運動が始まったのか平成13年あたりの時代背景には、下記のようなものがあります。

- ①子どもと真正面から向き合わない大人の増加
- ②青少年問題の顕在化
- ③青少年に悪影響を及ぼす有害情報の増加
- ④完全学校週5日制の開始

子どもは、まわりの大人や育つ環境に大きな影響を受けて成長します。子どもが心豊かに成長していくためには、多くの大人の関わりが必要です。私たちは、家庭で、そして地域で、子どもたちとどれだけ話をしていくでしょうか。地域では、大人が近所との付き合いを避けるなど、人間関係が希薄になってはいないでしょうか。

地域で大人がつながり、子どもたちと真正面から向き合う社会のなかでこそ、子どもたちの豊かな感性など「心の根っこ」が育まれていくと考えます。

今年は、11月14日(火曜日)にさくらホールでココロねっこ運動研修会を開催し、浦川末子様を招いての講演会をしていただきます。演題は、「子どもの将来の幸福ために～親の出番 地域の出番～」です。参加費無料、事前申込み不要ですので多くの方のご来場をお待ちしております。

自転車のマナーアップを!

9月は、「秋の全国交通安全運動」が実施され、9月26日に「秋の自転車マナーアップ運動」を行いました。各地区の健全協・保護司会・少年補導委員・警察補導委員・PTA 連合会・警察・各学校の生徒会と多くの団体と協力して行い、児童生徒の登校時間に広報車で市内を巡回したり、校門の前に立ち自転車マナーの向上を呼びかけたりしました。総勢175名の方の協力をいただきました。

朝の巡回中には、並列走行をしている高校生の自転車は何台もあり注意しました。大村市は、県内で一番自転車登校が多く、その分事故も多発しております。自転車は、軽車両ですので自分も加害者になる場合もあります。車が止まってくれる、車が避けてくれるといった考えでは、事故が発生します。自分の命を守るだけでなく、歩行者や車の運転手の方にも思いやりの心を持つことが大切だと感じます。

また、今年は自転車盗難が増加傾向にあります。少年センターも毎月中学校・高校の自転車施錠調査を実施しています。高校は、無施錠が多く自転車に鍵をかけるということが定着できていません。自転車盗難は自宅で盗まれることが多く、常に鍵をかけることが必要不可欠です。



子育てに生かす豆知識!!

～子どもの「自己コントロール力」を育てるための親の対応～

【親の聞く力、5つの原則】

最近の子どもたちは、どんどん真実が見えにくいインターネットの世界に潜り込んでいます。身近に居場所があれば…。聞いてくれる大人がいれば…。救われる子どもたちが必ずいます!

- ①親が話す時間より子どもが話す時間が多くなるように
- ②子どもの話に批判やアドバイスをせず、ひたすら聞く
- ③子どもの要求も話の題材に
- ④意見を求められたら「I(アイ=私)メッセージ」で

「私は・・・思う」「私は・・・が心配」

さらに「あなたはと思う」を付け加えると子どもが意見を言いやすくなる。

- ⑤結論を持たずに聞く



子どもは、話をしている自分の言葉の中から結論を発見していきます。親の結論を押しつけないようにお願いします。また、11月の「秋のこどもまんなか月間」に、ゆっくり子どもと話す時間をとっていただきたいと思います。

< 連載コラム >

私が小学生の頃、子ども会は花盛りでした。もう50年も昔の昭和の話です。今では聞かなくなった「七夕会」や「クリスマス会」、夏のプール開放も地区単位でした。月1回は集まりがあって、お菓子やジュース、スイカなどを食べることもありました。その資金源になる廃品回収はリヤカーを引いて、近所を回ったものです。一升瓶やビール瓶があるとニッコニコ。近所の方も快く用意してくれていました。今思うと地域と子どもがしっかり結びついていた時代でした。高学年になるとソフトボールやポートボールなど地区対抗の試合もあって、高学年がリーダーになって、下級生の面倒を見る流れが自然と出来上がっていました。異学年交流が自然とできた時代でもありました。小さな社会ではありますが、いろいろなルールを身に着けたように思えます。今思い返しても、当時は、ゲームやスマホはなく、娯楽も限られていたので、子ども会の集まりは大きなイベントでした。

その後、親として、子ども会を世話する側になりました。昔と比べると活動はぐっと狭まりましたが、夏のラジオ体操や「竹子連」が主催するペーロン大会や公民館でのお泊り会など今も思い出として残っています。精霊流しでは軽トラを精霊船に仕立てて、町内を回ったものです。子ども会を通して、自分自身、地域にちよっぴり貢献できたと思っています。

そんな子ども会ですが、時代の流れ、子どもを取り巻く環境が変わり、年々、加入者は減っています。それはある意味当然です。社会体育、各種スポーツ、習い事、学童保育、デイサービスも随分と増えました。学校外での子どもたちの「受け皿」が増え、選択肢が広がっていることは喜ばしいことでもあります。

ただ一つ忘れていけないのは、ただそこに住んでいるからふるさとになるのではなく、人と交わり、その地域の風習や特徴に触れながら、思い出を積み重ねる、そうしてふるさとと呼べるようになるものだと思います。だから、大人がすべきことは、子どもたちのふるさと作りをサポートすること。その意味で、子ども会の意義は大きいものがあると考えます。



青少年に関する相談は少年センター(月～金 8:30～17:15)へ
☆相談電話(ヤングテレフォン)0957-49-5263
☆Eメール相談 : kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp